



静岡社会健康医学大学院大学

SHIZUOKA GRADUATE UNIVERSITY OF PUBLIC HEALTH

アニュアルレポート 2024

ANNUAL REPORT 2024



Contents

- 1 | 学長メッセージ
- 2 | 世界の健康を牽引する大学を目指して
- 4 | 運営の体制
- 5 | 高度専門人材の育成
- 7 | プロジェクト研究
- 10 | 地域産官学連携
- 16 | 成果の還元
- 18 | ダイバーシティ
- 22 | 財務状況等
- 26 | キャンパス紹介
- 27 | 基礎データ
- 28 | 論文及び学会等発表一覧

学長メッセージ

「行動する社会健康医学」を志向して

アニュアルレポート2024をお届けします。

このアニュアルレポートは静岡社会健康医学大学院大学という長たらしい名前の大学がどんなことを考え、どんなことをしているのかをみなさんに広くご理解いただくために、毎年刊行している宿題報告のようなものです。昨年からニュースレターも年4回タイムリーに発刊していますので併せてお読みいただければこの一年の私たちの歩みが手に取るような臨場感を持って実感していただけたと思います。

私たちの大学は、2021年春に、本邦初の学部を持たない単科の社会健康医学系大学院大学として開学して以来、施設整備やカリキュラムの策定など慌ただしい時期を走り抜けて来ましたが、静岡県のひとかたならぬご支援と教職員一丸となったたゆまぬ努力、そしてなによりも真摯な院生のみなさんのひたむきな修学姿勢の賜物として、想定以上に順調な発展を遂げてきました。博士課程の開設、遺伝カウンセラー養成コースの設置など、開学時の懸案はすべて達成して参りました。

開学以来の4年間、私たちは着実に一つの歴史を作り上げてきたと自負しています。その歴史とは、静岡県における社会健康医学研究のメッカとしての基礎を構築し、エビデンスに基づいた研究成果の還元や社会実装を見据えた健康政策への提案・実践に貢献するという「新しい大学院大学のかたち」を内外に示してきたことに尽きると思います。奇しくも昨年末、厚労省が公表した令和4年の都道府県別健康寿命では本県の健康寿命が男女とも全国一位となりましたが、県や市町との緊密な連携の元に、本学の有機的な活動が大きな実を結ぼうとしていることに大いに勇気づけられました。

昨年は浙江大学医学院公共衛生学院との国際学術交流協定をはじめ、中東総合医療センターとの教育研究連携協定、富士市との包括的連携協定、島田市とのコホート研究協定の締結など、海外や地元に軸足を据えた研究や産官学連携を大きく推進することができました。今後ともこの勢いを維持してさらなる発展を期したいと念じています。

いま健康を決めるのは医学・生物学のみではなく、経済格差・地域格差・情報格差などの社会的決定要因が大きく介在しています。この健康格差は正には行政の関与も必須ですが、本学も社会疫学の視点でどのように取組むべきかという命題がいま鋭く問われています。また、疾病構造あるいは医療需要の変容に伴い、今後は予防や疾病の治療のみではなく、高齢者の生活機能の低下にどのように対峙していくかということも重要な研究テーマとなります。本学ではこのような視点から「行動する社会健康医学」を旗幟鮮明に掲げ、みなさんの目に見える形で健康長寿の延伸に寄与しながらさらに高みを目指したいと思います。どうか、社会実装をめざす私たちの熱い意思を肌で感じていただき、ぜひ引き続き本学に対するご理解と力強いご支援を賜れば幸甚です。どうぞ今後とも静岡SPHをくれぐれもよろしくお願いします。

令和7年4月

静岡社会健康医学大学院大学
学長・理事長

高橋 孝雄



世界の健康を牽引する大学を目指して

基本理念

健康と医療、環境を統合する俯瞰的な視点を機軸とし、
健康寿命の延伸に資する教育研究を通じ、
国際社会に貢献する「知と人材の拠点」を目指します。

基本方針

POINT

1

高度専門人材の育成

社会健康医学の学識を社会に還元し、医療・保健・福祉の現場でその向上に貢献できるプロフェッショナルな人材を育成します。

POINT

2

最先端の研究

臨床・予防医学の高度化、健康増進・疾病予防対策の最適化に資する最先端の疫学研究、ゲノム医学研究、医療ビッグデータ解析に取り組めます。

POINT

3

成果の社会還元

研究成果の社会実装を積極的に進め、幅広い視点から人類の健康増進や疾病予防に貢献します。

校章



静岡社会健康医学大学院大学から世界に羽ばたく人材を、医療の「医」の旧字「醫」の草書体をモチーフに、鳥の形にデザイン。
その中心部には、ハートが隠されており、社会健康医学が人々の健康と福祉の向上を図るための学問であることを表している。
清潔感のあるブルーのグラデーションで、成長・発展を表現。

中期目標・中期計画

中期目標・中期計画（2021年度～2026年度）は、本学の社会に対する「公的な約束」であり、次の3項目を重点的な目標に位置付けています。この中期目標の達成に向けて、着実に中期計画を実行していきます。

- 1 社会健康医学の学識を社会に還元する人材や社会健康医学を継続的に研究する人材の育成
- 2 社会健康医学研究の長期かつ継続的な推進
- 3 社会健康医学研究の成果の地域への還元

また、毎年度、中期計画の取組状況について自己点検・評価を実施・公表することで、社会に対する説明責任を果たし、皆様の理解と信頼の獲得に努めます。

中期目標・中期計画全文
<https://s-sph.ac.jp/disclosure/corporate/plan/>

各取組の実現に向けた役員体制

(2024年度末現在)

宮地 良樹
理事長兼学長

中山 健夫 副理事長(教育研究担当)
(京都大学大学院医学研究科教授・
京都大学医学部附属病院倫理支援部部長)

伊藤 裕 副理事長(将来構想担当)
(慶應義塾大学予防医療センター特任教授・
慶應義塾大学名誉教授)

芦川 敏洋 理事(総務担当)

浦野 哲盟 理事(教育研究担当)
(浜松医科大学特命研究教授・
十全オアシスクリニック院長)

後藤 康雄 理事(経営担当)
(はごろもフーズ(株)代表取締役会長)

渡邊 高秀 監事(弁護士)

吉村 峰仙 監事(公認会計士・税理士)

組織図



「知と人材の拠点」を目指して

■ 教育課程の充実

静岡社会健康医学大学院大学では、社会健康医学の最先端において未解明の課題に果敢に取り組む研究者の育成に向けて、2023年度に「社会健康医学専攻博士課程」を開設しました。定員2名に対して、2024年度は5名を受け入れました。

修士課程では、聴覚・言語分野に特化した「聴覚・言語コース」において、修了生を1名輩出しました。研究者として本分野の第一人者となり、医療関係者においては、診療内容の質の向上、新知見の発信などの社会還元、保健福祉関係者においては、現場での指導的立場となることが期待され、聴覚障害児の障害軽減に繋がることも目指します。

また、「認定遺伝カウンセラー」を養成する「遺伝カウンセラー養成コース」を新設しました。「認定遺伝カウンセラー」は、様々な分野で遺伝医療やゲノム医療当の推進に不可欠な人材として、活躍が期待されます。



■ 教育環境の整備

開学時からオンライン環境を積極的に整備しており、遠隔による授業や教育研究指導を行うことを可能としています。これにより、本学に通う多くの学生が仕事と学業の両立を実現しています。

 図書館

24時間利用可能な本学図書館は、公衆衛生学の5つのコア領域を中心に教育研究に必要な選書を揃えています。また、電子ジャーナル・データベースは約4,000タイトル収載しています。

2024年度は文献複写相殺サービスへ加入し、より広範囲の学術機関から文献を取り寄せることができました。



聴覚・言語コース

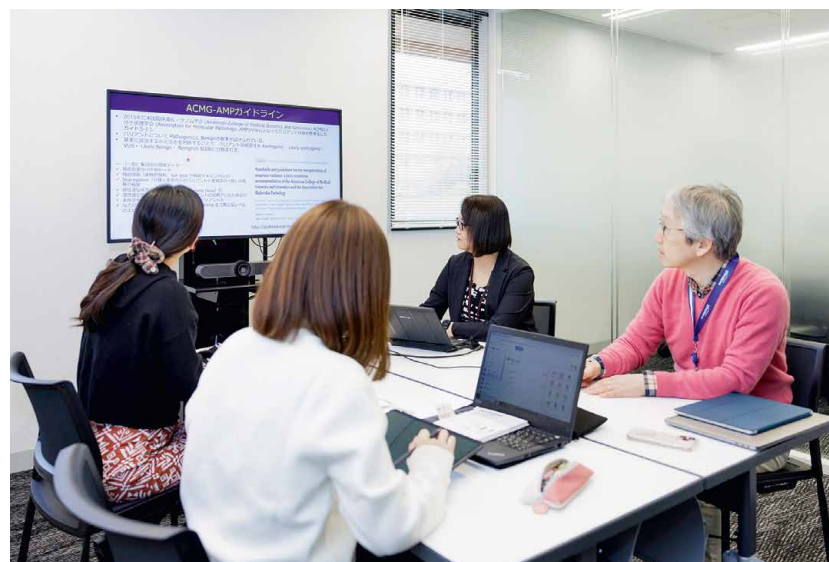
聴覚・言語領域では、聴覚・言語にかかわる専門的な教育・研究（きこえと脳の仕組み、各世代に対する聴覚補償のあり方、言語発達、認知の過程など）をとおして、高度な機能評価と適切な介入から社会健康医学の一翼を担うとともに、その分野をリードする専門人材を育成します。

令和6年度には、博士課程1名、修士課程2名を対象にした教育と研究指導を行いました。専任講師・非常勤講師のほか外部のゲストスピーカーを迎え、聴覚や認知メカニズムの基礎から、難聴への介入技術、社会的課題の理解を促す講義・演習を提供しました。両側人工内耳装用者の両耳機能の発達や、仮想音源技術に基づく両耳聴検査といった学生の研究課題への指導を行いました。また、本学の専任教員・非常勤講師に加えて海外の客員教員を迎えるなど、国際的な視点で聴覚・言語研究の推進にむけた体制も整えつつあります。

遺伝カウンセラー養成コース

「遺伝」は従来はごく一部の限られた疾患が対象でしたが近年は医療の幅広い現場に続々と実装化され医療中の重要な分野となりつつあります。一方で個人の遺伝情報は究極の個人情報であり、その特性を理解して取り扱う必要がありその人材が求められています。

遺伝カウンセラーは、遺伝医学の専門知識を持ち、患者や家族に遺伝に関する情報を提供し、心理的・社会的なサポートを行う専門職です。令和6年度に新たに開講された遺伝カウンセラー養成コースでは、遺伝カウンセラーとして必要な知識・技術・倫理観を身につけ、社会に貢献できる専門家を育成します。



ゲノムコホート

県内の地域住民を対象とした健康追跡調査（コホート研究）を行い、病気の予防に役立つ成果を生み、誰もが健やかに長生きできる社会を目指します。

およそ5年おきに同一の個人に調査をお願いし、長期間にわたる健康状態を記録します。最先端のゲノム科学（ヒト遺伝子情報を網羅的に調べる手法）を取り入れ、生まれ持った体質に応じた予防医学の発展に貢献します。継続的に記録保管されたデータと検体は、現在そして次世代の研究者が質の高い研究を行う基盤となります。静岡県民の健康を支える貴重な財産といえます。

地域住民と研究協力者の参加を募る研究過程そのものにも意義があります。健診の説明会・ニュースレターを通して、健康意識を高めます。本事業は県内外の大学・研究機関・企業や県内自治体との共同事業であり、各団体間の交流を通じた研究発展と施策の改善につながることも期待されています。



年度	地区	参加人数
2021	賀茂	405 (コロナ禍で縮小)
2022	賀茂	1,287
2023	袋井市	1,854
2024	袋井市	1,175



コホート調査 (ふくけん!健診)の 実施

- 2024年12月～2025年3月にかけて、常葉大学、静岡県立大学、京都大学、聖隷福祉事業団等の関係機関と連携し、袋井市でコホート調査（ふくけん!健診）を実施しました。調査日は18日、準備日は6日、検体等回収日は14日（計38日間）でした。
- コホート調査に先立ち、健診実施会場等で住民向けの事前説明会を実施しました（3日間）。説明会では、健康づくりに関する講演会も併せて実施しました。
- ふくけん!健診には、のべ1,175人の参加者を得ました。
- コホート調査で収集した臨床情報をクリーニングしデータベース化しました。血液・尿中の主要なマーカーを測定し、残検体を冷凍保存しました。
- 末梢血からDNAを抽出し、ゲノム解析を行うための試料を確保しました。
- コホート調査後は、結果（特定健診相当ならびに医学的意義が明確な項目）を対象者に回付するとともに、結果説明会を開催しました。結果説明会では、サルコペニアの予防に有用な運動指導や、脳卒中予防、歯科衛生に関する講演も行いました。

コホート調査への 参加スタッフの数

- コホート調査（ふくけん!健診ミニ、ふくけん!健診、ならびに関連業務（事前説明会、結果説明会、市町や医療機関等の調整業務）のため、研究代表者が年間57日間袋井市に出向きました。
- コホート調査に関わった教職員（他大学や県からの参加者含む）は延べ485人でした。

静岡県市町国保データベース (SKDB)

本学では、静岡県下全35市町の国民健康保険および後期高齢者医療制度加入者の医療・介護・特定健診データを結合した大規模なデータベース「静岡県市町国保データベース (SKDB)」を整備し、社会健康医学に関するエビデンスの創出を目的とした医療ビッグデータ研究を実施しています。令和6年時点の静岡SKDBの登録者は約265万人で、最長で10年以上追跡することが可能です。様々な疾患の発症や予後の予測や、治療効果評価など社会健康医学に関するエビデンスの創出を目指しています。これらは Shizuoka Kokuho Database Study の名前で論文発表しており、令和6年度では21報の実績がありそのうち14報が国際雑誌への報告でした。令和3年度は14報 (うち国際雑誌5報)、令和4年度は23報 (うち国際雑誌8報)、令和5年度は13報 (うち国際雑誌6報) でした。コホート研究と並び本学の研究の主流となっています。

医療ビッグデータ解析研究に関する論文件数及び学会発表件数 21件

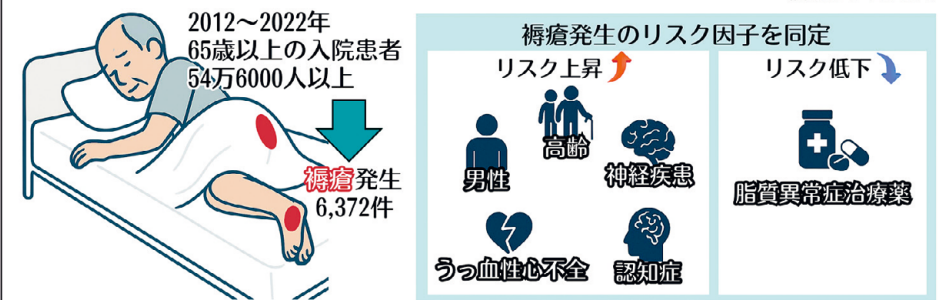
継続研究 52件

新規開始研究 25件

- 【新規褥瘡リスク評価スケール開発を目的とした静岡国保データベースによる褥瘡発症リスク因子の探索】
- 【肥満の指標としてのBody Roundness Indexの探索的検討：SKDB研究】
- 【循環器疾患発症へのウイルス感染症の影響の評価：SKDB研究】
- 【静岡県におけるアナフィラキシー発症に関する疫学調査】
- 【高齢者における爪白癬発症が大腿骨頸部骨折にあたえるリスク】
- 【橈骨遠位端骨折受傷者の死亡・要介護リスク検討】
- 【肥満/BMIを踏まえた胆道癌のリスク因子の検討】
- 【静岡県における非感染性疾患のリスク因子の検討】
- 【歯周病による潰瘍性大腸炎及びクローン病の発症リスク評価】
- 【薬剤関連顎骨壊死発生のリスク因子の検索】
- 【高齢者における過活動膀胱治療薬の選択とフレイル指標であるeFIとの関連に関する研究】
- 【遺伝性乳がん卵巣がん症候群の乳がん患者の遺伝カウンセリングの疫学調査】
- 【重症筋無力症のリハビリテーションに関する検討】
- 【SKDB研究：乾癬と脳心血管イベントの関連】
- 【統合失調症患者における精神科救急入院急入院料病棟と非精神科救急入院料病棟の入院治療が再入院率に与える影響の比較研究】
- 【バレット食道のリスク因子の確認】
- 【KDBを用いた変形性脊椎症に対する外科加療の術後薬物療法への影響の調査】
- 【オレキシン受容体拮抗薬投与患者におけるシトクロムP450 3A4阻害薬と大腿骨近位部骨折の関連】
- 【高齢者CKD患者に合併した貧血と健康状態への影響】
- 【慢性B型大動脈解離の保存的治療におけるβ遮断薬の種類がアウトカムに与える影響に関する検討—静岡KDBを用いた広報紙的コホート研究—】
- 【脾切除後の糖尿病および脳心血管疾患発症リスクの解明】
- 【静岡県におけるロービジョンケア実施状況に関する記述疫学的研究】
- 【橈骨遠位端骨折後の60歳以上の女性における大腿骨近位部骨折発症のリスク因子の同定：静岡国保データベース研究】
- 【特定健診の生活習慣病発症予防効果の検証：SKDB研究】
- 【一般集団における低尿酸血症と総死亡・循環器疾患との関係】

THE SHIZUOKA KOKUHO DATABASE STUDY, ANNUAL REPORT 2024

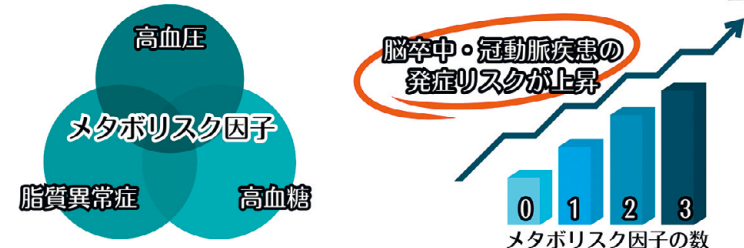
高齢入院患者における褥瘡発症リスク、男性・高齢・神経疾患などを同定
橋爪 ㊦, 2025. 3



日本では高齢化に伴い、入院患者の褥瘡(じよくそう)の発生リスクが増加しています。静岡県国保データベースを用いて、2012年から2022年までの65歳以上の入院患者約54万人を対象に褥瘡の発生リスクを解析した結果、男性であることや高齢であること、神経疾患、認知症、うつ血性心不全がリスクを高める要因であることが明らかになりました。一方で、脂質異常症治療薬の使用がリスク低減に関連する可能性も示されましたが、その効果にはさらなる検討が必要です。本研究は日本においてビッグデータを活用して高齢入院患者の褥瘡リスク要因を明らかにした初の試みであり、今後はこれらの知見に基づいた褥瘡対策の強化が期待されます。

Hashizume H, Matsuura A, Miyachi Y. The Shizuoka Study of a Population-Based Retrospective Cohort for the Evaluation of Risk of Pressure Injury in the Elderly. Adv Wound Care (New Rochelle). 2025 Mar 17.

非肥満者でもメタボリスク因子の蓄積で脳卒中・冠動脈疾患リスクが上昇
田原 ㊦, 2025. 2

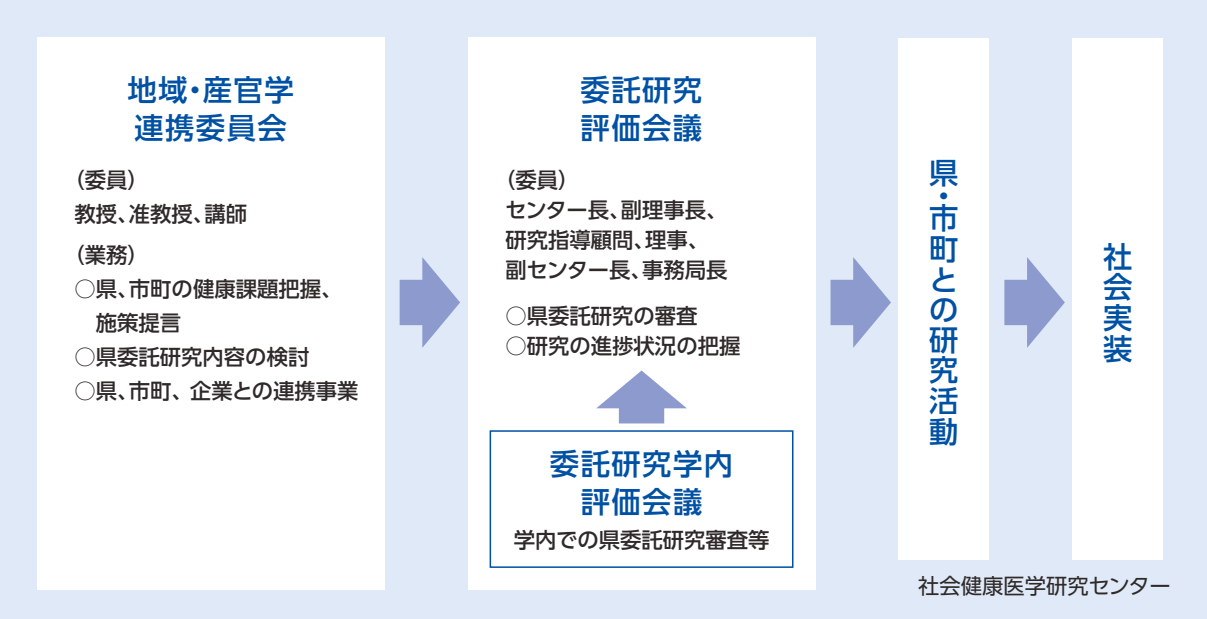


これまで特定健診・特定保健指導では、主に肥満者を対象とした生活習慣病対策が進められてきました。静岡県国保データベースを用いて40歳～74歳の非肥満者約36万人を対象に行われた研究により、非肥満者においても高血圧・脂質異常・高血糖といったメタボリスク因子の蓄積が、脳卒中や冠動脈疾患のリスクを高めることが明らかになりました。本研究の成果は、「非肥満＝低リスク」といった従来の前提を見直し、非肥満者にも潜む「隠れリスク」に着目する必要性を示すものです。特定保健指導において非肥満者を含めた包括的なリスク管理の実施が望まれます。

Tabara Y, Shoji-Asahina A, Sato Y. Association between Metabolic Syndrome and Cardiovascular Events in a Japanese Population with and without Obesity: The Shizuoka Kokuho Database Study. J Atheroscler Thromb. 2025 Feb 19.

地域産官学連携

地域社会への実装を生み出す静岡SPHモデル



- 社会健康医学研究により得られた知見や成果を、行政や医療機関などと連携して社会実装する取組を推進しています。
- センター長及び副センター長を中心に県と連携を図り、県や市町、企業等からの諸課題に対する対策の提案や助言等を積極的に実施しています。

静岡県からの指定研究の取組

課題名	研究期間(年度)	目 的	地域社会への社会実装
健康寿命延伸のための市町別生活習慣等のモニタリング	R4～6	生活習慣病予防のモニタリングに必要な、栄養素摂取量、身体活動量、喫煙、飲酒などの生活習慣などを、市町毎に十分な精度・代表性を以て適切な間隔で測定できるように体制づくりの構築	・市町等の行政施策に直接利用できる生活習慣モニタリングを実施するシステムの構築 ・モニタリングに基づいて、住民の健康状態の把握を行い、それに基づいた効果的な行政施策の立案、実施、及びその評価方法の確立
新型コロナウイルス感染症の高齢者施設等での発生状況の分析	R5～7	各施設から県に報告された新型コロナウイルス感染症患者の発生報告に基づく発生状況の分析及び集団発生等予防の方策の検討	・新型コロナウイルス感染症の発生報告に基づく行政関連資料を利用した感染対策施策の実例の周知 ・行政を通じた各高齢者施設・障害者施設への周知及び今後の感染予防施策への貢献

結 果 健康寿命延伸のための市町別生活習慣等のモニタリング市町セミナー

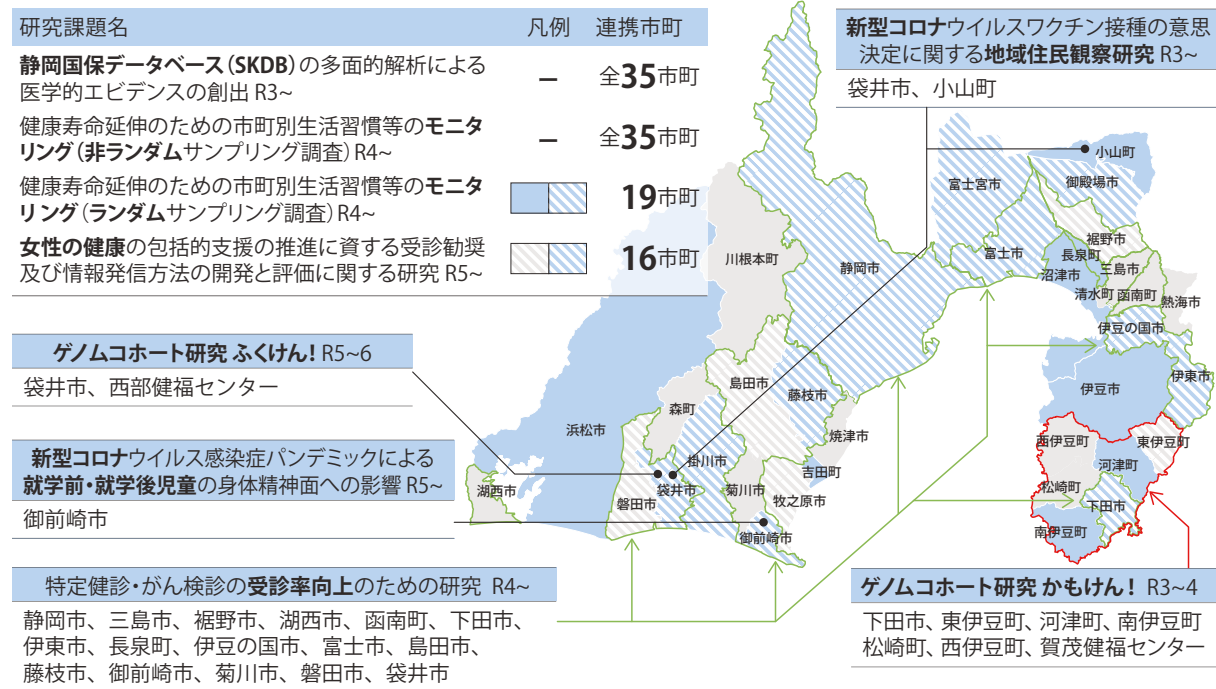
開催日時 2024年8月23日 10:00-17:00 (全市町)
2025年2月18日 15:00-17:00 (ランダム14市町)
2025年3月4日 10:20-16:20 (全市町)

健康寿命の延伸に寄与する栄養施策等の推進を目指し、地域を把握するための基本的な考え方や調査手法、結果の活用方法等、実践について学びました。



連携 1 市町をフィールドとした研究

- 県内全市町との連携により研究成果の社会実装を目指す多様な研究を展開
- 地域をフィールドとした研究が市町の協力により年々増加



連携 2 市町・県機関の委員やアドバイザーとして参画

- 社会健康医学の学識を行政施策に役立てるため、豊富な研究実績や知見を持つ専任教員が多くの市町・県機関で活躍

県内の行政機関との関わり(主なもの)

区分	市町・県機関	協議会等の役職・講演会の名称	教員名
市町	静岡市	がん検診精度管理協議会委員	山本教授
	静岡市	国民健康保険特定健康診査等実施計画推進協議会委員	満田准教授
	富士市	富士市健康づくり推進協議会委員	満田准教授
	袋井市	健康増進業務アドバイザー	田原教授、山本教授
	御前崎市	健康づくり推進協議会アドバイザー	山本教授
	牧之原市	健康づくり推進協議会アドバイザー	田原教授
	東伊豆町	健康づくり推進協議会構成委員	満田准教授
	小山町	行政アドバイザー	菅原教授
	藤枝市	藤枝市新産業創造戦略委員会委員	山本教授
	賀茂健康福祉センター	圏域歯科会議	佐藤講師
県関係	中部健康福祉センター	健康増進関係事業情報交換会(がん検診に係る助言)	山本教授
	西部健康福祉センター	食育指導者研修会講師・助言	満田准教授
		ふじのくに健康増進計画推進協議会委員	山本教授
	健康福祉部	血圧測定習慣化タスクフォース委員	田原教授
		静岡県国民健康保険運営協議会委員	満田准教授
		歯科保健医療提供体制分析・活用事業ワーキング・グループ委員	佐藤講師
	経済産業部	フーズ・ヘルスケアオープンイノベーションプロジェクト戦略検討委員会委員	山本教授
		ICOIプロジェクト アドバイザー	田原教授

医療連携

県や県の施策に協力する団体や医療機関と連携し、本県の医師などの人材確保対策へ積極的に貢献しています

地域医療連携推進法人ふじのくに社会健康医療連合(代表理事:宮地良樹)の理事会(全4回)に理事長が出席し、静岡県立病院機構、地域医療機能推進機構と医師確保や医療連携などについて意見交換を行い、連携を深めました。

県から医師配置調整業務を受託し(受託事業)、配置調整連絡会議等(全4回)、医師確保部会(全4回)、及び医療対策協議会(全3回)への参加、県との定期協議(原則月1回)への参加、専任医師1名を採用し、その専門性を生かしたキャリア形成プログラムの再構築を行う病院への助言及び静岡県立総合病院との協働による県医学修学研修資金被貸与者・病院面談の実施などを通じて本県の医療体制を支える医療人材の確保に貢献しました。

令和6年度に本学が担当した医師配置対象者は192名(新規50名、継続142名)で、内15名を東部地域の病院に配置しました。また97名(新規47名、継続50名)に面談を実施しました。

事業の実施を通じて、県や医療機関、浜松医科大学等関係機関との連携を深めることができ、教育研究の基盤を強化しました。

様々な地域の課題解決に貢献するために、医療機関等との連携・協力関係を構築しています

中東遠総合医療センター(掛川市・袋井市病院企業団)と「教育研究協力に関する協定」を締結しました。両者が保有する情報を活用した共同研究が進むことで、本学においては大学院生の教育研究の高度化、企業団においては医師、看護師等の専門職の研究活動が活性化することが期待されます。



富士市と包括連携協定を締結しました。それぞれの資源や機能等の活用を図りながら、幅広い分野で相互に協力し、地域社会の発展と人材育成を目指します。



静岡新聞社・静岡放送と、大学の医療研究の成果などをメディアの持つ発信力を活用して広く周知し、県民の健康や福祉の向上に寄与することを目指し、連携協定を締結しました。



他大学との連携

国立大学法人弘前大学

相互に所有する研究資源を両組織の研究活動全般に活用することで、相互の研究交流を促進するとともに、両組織の学術研究の一層の充実を図るため、国立大学法人弘前大学と、コホート研究を柱にした学術研究交流に関する協定を締結しました。

期間 2023年6月1日～2027年3月31日（4年間）

連携する学術研究交流事項

- 1 コホート事業の高度化のための研究連携
- 2 研究成果の社会実装を推進するための基盤強化
- 3 URAを含む研究支援人材や若手研究者の育成と人材交流



弘前大学

浙江大学医学院公共卫生学院

本学初の国際交流協定を、静岡県と長年友好提携関係にある中国・浙江省の浙江大学医学院公共卫生学院と締結しました。本協定は、相互平等と互惠の精神に基づき、両機関の学術協力と交流を促進することを目的としています。協定締結に際して記念講演会を開催し、両大学の紹介と代表的な研究に関する発表を行い、学術交流の端緒を開きました。

期間 2024年10月24日～2029年10月23日（5年間）

連携する学術研究交流事項

- 1 講義や共同研究等を目的とした教員の交流
- 2 学生交流プログラム等の実施による学生の交流
- 3 相互に関心のある分野における共同研究・事業の協力



成果の還元

住民の健康寿命の延伸に資する研究課題を科学的に分析し、県や市町の健康増進施策、疾病予防対策の政策形成や各種施策の推進を積極的に支援しています。

また、研究成果を地域に還元していくことは、国内外にも大きな波及効果を生むことから、県や市町とともに、住民が自らの健康を意識し主体的に健康増進活動に取り組めるよう、研究成果を住民に分かりやすく情報提供しています。

PROJECT 1

地域と連携し、住民の健康づくりと、予防医学研究に貢献

静岡多目的コホート事業

静岡県の様々な地域において、住民を対象に5年ごとに健診を実施。健診データを研究に活用して、病気の予防方法の開発につなげるプロジェクト。

袋井地域で実施した「静岡多目的コホート事業袋井健康長寿研究」のフィールド調査で収集した臨床情報等を活用した研究を推進しました。

袋井市において、耐糖能異常の対策が必要であることを提示したほか、通常の健診では補足できない、低栄養とサルコペニア・転倒のハイリスク者、認知症のハイリスク者について情報提供しました。



特定健診・がん検診の受診率向上の取組

特定健診受診率向上に関心の高い市町（静岡市、三島市、裾野市、湖西市、函南町、伊東市、富士市、磐田市、藤枝市、袋井市、下田市、御前崎市、伊豆の国市）に対し、分析結果に基づき、受診率向上に効果があると考えられる施策を市町とともに立案し、実施可能な施策を実施しました。

フォーラム、セミナー、公開講座

地域の方々が、自らの健康を意識し、主体的に健康増進活動に取り組む機運を醸成するため、フォーラムやセミナー、公開講座を開催しています。

2024年10月、県主催（大学共催）で「知って防ごう！脳梗塞と心筋梗塞」をテーマに県民健康講演会を開催しました。
（参加者数：153名）

2024年12月、「遺伝と健康・寿命」をテーマに、静岡社会健康医学セミナーを開催し、好評をいただきました。
（参加者数：オンライン含め129名）

2025年3月、「けんしん（検診と健診）の効果」及び「患者と医療者が一緒につかう健康の道しるべ:診療ガイドラインとは?」をテーマとした公開講座を開催しました。
（参加者数:オンライン含め104名）

Diversity

ダイバーシティ

多様なバックグラウンドの学生

本学には、多様なバックグラウンドを持つ学生が集まります。それぞれの専門性を基盤に本学で学ぶ学生たちは、社会健康医学を学んだ先に、それぞれの未来を見据えています。

*掲載されている学年は撮影時のものです。

		
MODEL 01	MODEL 02	MODEL 03
静岡社会健康医学大学院大学 ウエルネスみらい講座(タイカ) 特定教授	医 師(脳神経内科医)	歯科医師・県職員

医療の仕組みを見つめ直し、
医療の未来をデータで拓く

橋爪 秀夫さん 修士課程 2022年度修了

入学前

臨床医・教育・管理職の経験

皮膚科専門医として臨床と教育に従事し、公立病院の管理職も経験。医療提供の仕組みを理解し、現在の医療課題を実感するようになりました。

在学中

新たな学びへの挑戦

医学部時代には多くを学べなかった疫学や高齢者医療について知り、社会全体の医療課題に目を向けるようになりました。

科学的根拠に基づく医療を
追求し、現場で活かす力を

齊藤 喬さん 修士課程 2023年度修了

入学前

ヘルスリテラシーを
高める必要性を

患者の社会的課題を理解し、健康の社会的決定要因を学ぶ必要性を感じ、ヘルスリテラシー向上のため入学を志望しました。

在学中

修士論文で
臨床疑問の解決に取り組む

研究を通じ、臨床疑問を研究に昇華し、統計解析を行いながら科学的証拠を創出する能力を養い、英文誌への投稿を経験しました。

社会健康医学の知見を活かし、
県民の健康寿命延伸へ

種村 崇さん 修士課程 2年*

入学前

県民の健康寿命の
さらなる延伸のために

行政歯科医師として、社会健康医学の5領域を学び、より広い視野で県の保健医療施策に活かすために入学しました。

在学中

さまざまなバックグラウンドを
持つ同期とともに学ぶ

授業はアクティブ・ラーニングを中心に学びました。EBPM (エビデンス・ベースト・ポリシー・メイキング=証拠に基づく政策立案) に関心があり、新たな領域での研究に挑戦し、政策評価研究に取り組みました。

		
MODEL 04	MODEL 05	MODEL 06
看護師	管理栄養士	看護師・助産師

研究と臨床をつなぎ、
看護の現場に新たな視点を

石川 彩実さん 修士課程 2023年度修了

入学前

臨床に還元できる
学びの場を求めて

臨床看護師として研究の難しさを感じ、幅広い学びを通じて知識を深め、研究と臨床の双方に活かせると考え入学を決意しました。

在学中

臨床疑問をもとに、
課題研究に取り組む

集中治療室で重症患者を看護し、発症予防の重要性を痛感。講義で得た知識を基に、病院のカルテデータを分析して課題研究に取り組みました。

データを活用し、科学的
根拠に基づく健康施策を推進

塩谷 祐実さん 修士課程 2023年度修了

入学前

データの読み方がわからず
健康課題の根拠に疑問

数や割合だけで課題や重点取り組みを判断することに疑問を感じ、疫学や統計を学び、健康課題や重点取り組みを提案したいと考えました。

在学中

モニタリング調査のデータを
活用して研究に取り組む

静岡県と共同で実施したモニタリング調査で収集した住民の栄養や食生活のデータを活用し、肥満と食事の速さの関連について研究しました。

遺伝医療の最前線で学び、
意思決定を支える力を磨く

加藤 友里さん 修士課程 1年*

入学前

遺伝カウンセラーとして意思
決定を支える力を身につけたい

助産師として出生前診断や先天性疾患の支援の必要性を感じ、臨床経験を学びにつなげ、妊娠期から出生後まで家族を支えるため進学しました。

在学中

分子生物学の知識から
研究の社会実装まで学ぶ

遺伝の分子レベルの知識から伝え方、統計学、質的研究、社会への還元まで、ミクロからマクロにわたる幅広い学びに取り組みました。

PICK UP	PICK UP	PICK UP
医療社会学が変えた視点	行動医科学	ヘルスケアビジネス論
医療の歴史や制度、批判的視点を学び、医師という職業の社会的役割や、医療従事者間の関係性に新たな気づきを得ることができました。	行動科学理論に基づき健康増進のための行動変容を探索。グループワークを通じ多様な視点を学び、社会の健康を考える契機となりました。	研究のための研究に終わらせず、実際の医療現場で活かせるよう、研究シーズの社会実装をヘルスケアビジネスの視点から学びました。
卒業後	卒業後	卒業後
皮膚科学×データサイエンス	患者データベースを構築し、 解析研究を実施	大学院で得た 知見を還元する
静岡県国保データを活用し、褥瘡や高齢者医療の疫学研究を進め、ビッグデータをを用いた新しい医療の可能性を模索しています。	所属施設で患者データベースを作成し、解析研究を実施。臨床現場に役立つ科学的証拠の創出を目指し、同僚と研究を続けています。	この2年間で学んだ社会健康医学の知見を、実務者として県の政策や地域に還元し、県民の健康寿命の延伸に貢献していきたいです。

PICK UP	PICK UP	PICK UP
死生学	ヘルスコミュニケーション	医科遺伝学演習
臨床では患者さんの最期に立ち会うことが多く、これまで出会った患者さんを思いながら自らの看護を振り返る機会となりました。	健康行動理論について演習を交えて学び、業務に活かすことができました。卒業後も資料作成のアドバイスをいただいています。	県立総合病院の遺伝カンファレンスやエキスパートパネルを見学し、遺伝学的検査の解釈や心理社会的課題を学ぶ貴重な機会となりました。
卒業後	卒業後	卒業後
患者さんに還元できる 研究を続けていきたい	根拠を持って事業を 運営することを心がけて	認定遺伝カウンセラー 試験合格を目指して
大学院での学びは看護や修了後の研究に活かしています。課題研究を発展させ、看護師として循環器疾患の予防に貢献する研究を進めていきたいです。	情報の正確性や根拠を確認し、自信を持って事業に携われるようになりました。モニタリング研究のデータを活用し、健康増進計画策定を準備中です。	本学で学んだ「相手の立場を考えた伝え方」と「学び続ける姿勢」を大切に、静岡県の遺伝医療に貢献していきたいです。

PUBLIC HEALTH

研究のフロントランナーたち

多様な領域の専任教員

本学には、世界的に活躍している多様な領域の教員が在籍し、講義と研究指導を担当しています。
また、以下のような、代表的な六つの分野における最先端の研究に取り組んでいます。

RESEARCH

1

老年医学・高血圧学

高齢者特有の疾患の病因解明を目指す
大規模地域住民コホート研究

コホート研究は、ヒト集団を長期間追跡することで疾病の要因を解明する研究です。生活習慣や遺伝的背景が異なる集団を対象にした諸外国での研究成果は、そのまま日本人に外挿することはできません。また、かつては稀有であった認知症やフレイルがありふれた疾患となるなど、日本人の特徴は刻々と変化しています。そのため、日本人の健康を守るためには日本人独自の最新の知見が必要であり、その点においてコホート研究は電気やガス、水道と同じく社会のインフラといえます。我が国で最も新しい静岡多目的コホート研究事業を舞台に、未だ日本人で発症頻度の高い脳血管障害や、高齢者のサルコペニア・フレイル、認知症の要因解明を通じて、健康寿命の延伸に資する研究を進めています。



教授
田原 康玄

RESEARCH

2

研究倫理・研究方法論

研究に関わるすべての人にとって
安全で質の高い研究を目指す

社会健康医学の調査研究では、研究のテーマによらず、その研究データが持つ倫理的・法的・社会的な含意を考慮することが不可欠です。多くの場合、研究は参加者や社会に直接的な利益をもたらすものではないため、研究者には研究のリスクから参加者、社会、そして研究者を守る役割があり、そのための知識やスキルも必要です。これまでに、がん患者と医師による対話の参与観察、先端科学技術に対する一般市民や専門家集団の意識調査、医療機関のWEB情報、行政機関の公開情報など、多様なデータをさまざまな方法で分析してきました。質の高い安全な研究を目指して、よりよい仕掛けを一つ一つ皆さんと作っていきたくと考えています。



講師
八田 太一

RESEARCH

3

ゲノム医学

最先端ゲノム医学の知見を
健康医学の分野に役立てる

近年、急速に医療現場のみならず健康医学の分野においても「遺伝」や「ゲノム医学」に関する知見が取り入れられるようになってきました。一方でこれらの情報についてはその特性を理解した取り扱いが必要です。未来の健康科学を担う人材には、このような知識を学び、研究に取り組んでいただきたいと思います。(臼井教授)
研究実験室ではコホート研究で収集する検体の管理や生体分子測定、DNA抽出を行っています。老化バイオマーカーを探索する研究をしています。細胞培養装置・各種顕微鏡・セルソーター・デジタルPCRなど、定量的生物学実験を行える設備を活用し、人々の健康に役立てます。(木下教授)



教授
臼井 健

教授
木下 和生

RESEARCH

4

聴覚言語学

難聴への適切な介入と
療育の基盤となる聴覚・言語研究

難聴は、コミュニケーションの困難や社会的孤立などをもたらす恐れがあり、乳幼児にあっては言語・認知発達にも大きな影響を与えます。これは社会全体の健康・経済・福祉にもかかわる課題ともいえます。現代では人工内耳や補聴器等の技術的な選択肢もあり、早期発見と適切な介入・療育が問題解消に効果的だといわれていますが、その社会への実装は不十分です。私たちは、難聴者の聴覚・言語メカニズムに関わる研究を行うほか、静岡県による先進的な聴覚スクリーニングや療育と連携しながら、社会システムの課題抽出や介入・療育効果の評価に関わる研究を行い、難聴者個人と社会への貢献を目指します。



教授
高木 明

教授
古川 茂人

RESEARCH

5

ヘルスコミュニケーション

行動科学や行動経済学を基盤に
社会と直結した社会実装研究を実施

ヘルスコミュニケーションは、社会における多様な人々の健康の維持増進の支援に取り組む上で、非常に強い武器になります。この分野では、行動科学や行動経済学を基盤に、行政やマスメディアとも積極的に協働し、対象となる方々を無理なく行動変容に繋げ、エビデンスプラクティスギャップを埋めるための方法を開発と社会実装を進めています。また、自然災害に加え、新型コロナという未曾有の感染症蔓延を経験し、ますます需要が高まっているリスクコミュニケーションについても、最前線の現場と直結した研究を実施しています。研究のための研究に終わらず、人や社会に役立てるための学問であるDissemination&ImplementationScienceと一緒に深めましょう。



准教授
溝田 友里

教授
山本精一郎

RESEARCH

6

医療社会学・死生学

死別悲嘆へのサポートが充実した
地域コミュニティの構築を研究

死別悲嘆（グリーフ）に共感的で支援的な地域コミュニティの構築に取り組みつつ、研究しています。当事者・医療者・宗教者とともに、グリーフサポートの小冊子を作成したり、当事者向けのわかちあいの会と、一般市民向けの看取りと死別に関する講座やデスカフェ（死生を語りあう会）を開催したりし、その過程で自分たちの取り組みの改善を図るための社会調査や理論的研究を行っています。また、現代社会のグリーフサポートの様相を関係者の視点から理解するために、死別経験者とグリーフサポートに携わる市民や医療・行政関係者に対する、インタビュー調査にも取り組んでいます。



教授
山崎 浩司

財務状況等

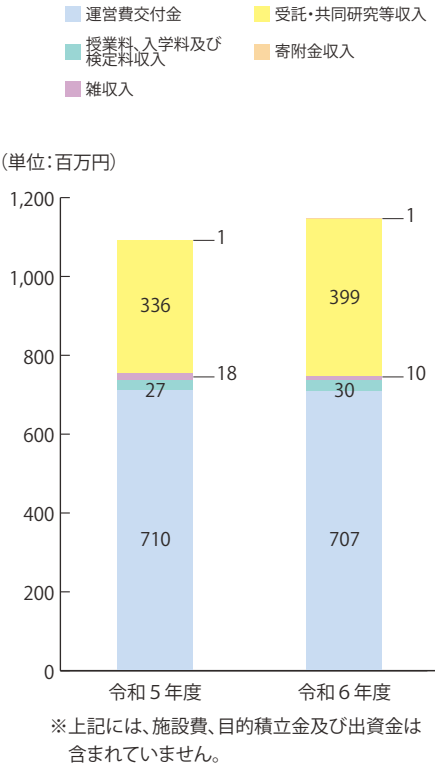
主な運営財源の推移

令和6年度の主な運営財源（受入額）は、前事業年度より55百万円増加し、1,148百万円となりました。増加の主な要因は、受託研究収入及び受託事業収入の増加です。

(単位:百万円)

	令和5年度	令和6年度	増減
運営費交付金	710	707	△3
授業料、入学料及び 検定料収入	27	30	3
雑収入 (うち 科研費間接経費)	18 (17)	10 (9)	△8 (△8)
受託・共同研究等収入	336	399	63
寄附金収入	1	1	0
計	1,093	1,148	55

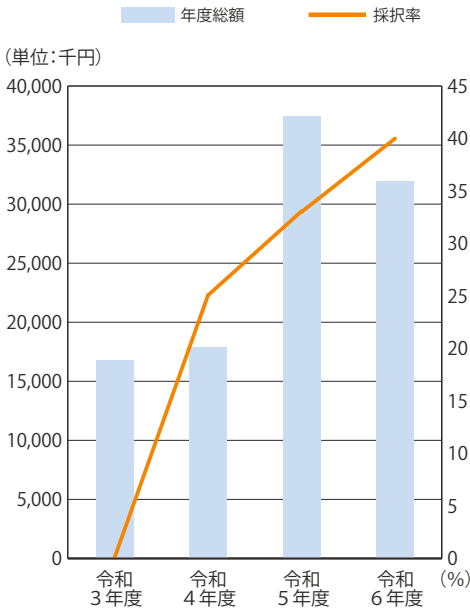
※金額は百万円未満を切捨しているため、合計金額と一致しない。



科研費獲得状況

(単位:円)

区分	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
基盤研究(A)	9,750,000	8,840,000	8,840,000	8,840,000
基盤研究(B)	416,000	897,000	11,945,000	5,505,000
基盤研究(C)	4,744,241	4,678,000	7,091,669	4,524,000
若手研究	1,770,000	1,170,000	4,290,000	1,950,000
挑戦的研究(開拓)	0	0	2,872,000	8,104,000
挑戦的研究(萌芽)	0	2,210,000	2,340,000	1,690,000
特別研究員奨励費	0	0	0	1,300,000
計	16,680,241	17,795,000	37,378,669	31,913,000
採択率	0%	25%	33%	40%



公立大学法人静岡社会健康医学大学院大学への寄附について

皆様からの寄附金は、次のような用途に活用させていただきます。

区分	
大学の支援	教育活動等、地域貢献活動、学習環境の整備、大学の運営に要する経費等
修学支援事業	経済的理由により修学が困難な学生の支援 学生又は不安定な雇用状態にある研究者の雇用及び研究への支援
奨学寄附金	学術研究の推進

寄附講座の開設	
区分	内容
講座名	ウェルネスみらい講座(タイカ)
講座開設期間	R6～8年度
金額	90,000,000円
研究の目的及び テーマ	「長寿ウェルネス」に寄与することを目指す 【主なテーマ】 褥瘡の実態調査やその発生機序、創傷治癒機転等に関する基礎研究と臨床への応用、 医薬品、医療材料、医用工学機器などの開発、褥瘡に悩む患者さんや家族への啓発・ 心のケアなどに貢献すること
特定教員	2名



株式会社タイカ様より100万円の寄付をいただきました。
令和3年度から4年連続の申し出を受け、多大なる貢献をいただいております。

寄附についての詳細は、こちらをご参照ください。
<https://s-sph.ac.jp/disclosure/donation/>

2024.6

財務情報

貸借対照表の概要

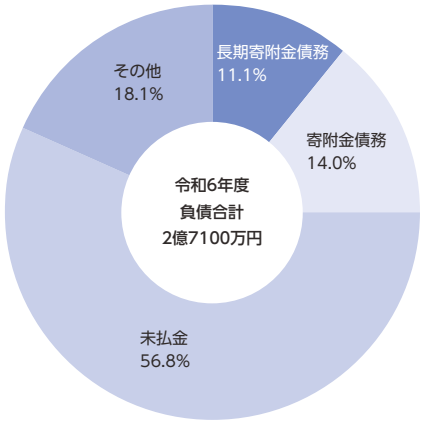
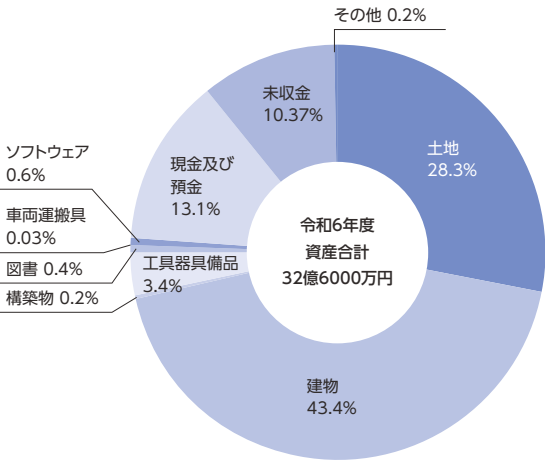
(単位:百万円)

資産の部	令和5年度	令和6年度	増減
土地	920	920	0
建物	1,567	1,413	△154
構築物	9	8	△1
工具器具備品	197	110	△87
図書	11	12	1
車両運搬具	1	1	0
ソフトウェア	39	19	△20
現金及び預金	355	427	72
未収金	296	338	42
その他	8	8	0
資産合計	3,406	3,260	△146

(単位:百万円)

負債の部	令和5年度	令和6年度	増減
長期寄附金債務	60	30	△30
寄附金債務	31	38	7
未払金	149	154	5
その他	46	49	3
負債合計	286	271	△15
純資産の部	令和5年度	令和6年度	増減
資本金	2,640	2,640	0
資本剰余金	△52	△234	△182
利益剰余金	230	533	303
当期末処分利益	302	50	△252
純資産合計	3,120	2,988	△132
負債・純資産合計	3,406	3,260	△146

※金額は百万円未満を切捨しているため、合計金額と一致しない。



キャッシュ・フロー計算書の概要

(単位:百万円)

	令和5年度	令和6年度	増減
I 業務活動によるキャッシュ・フロー	46	79	33
II 投資活動によるキャッシュ・フロー	23	△7	△30
III 財務活動によるキャッシュ・フロー	—	—	—
IV 資金増加額(又は減少額)	70	72	2
V 資金期首残高	285	355	70
VI 資金期末残高	355	427	72

※金額は百万円未満を切捨している。

損益計算書の概要

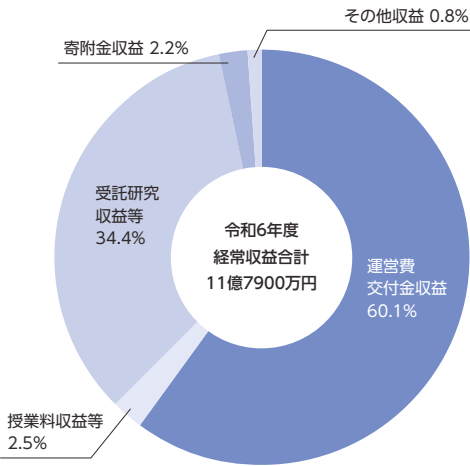
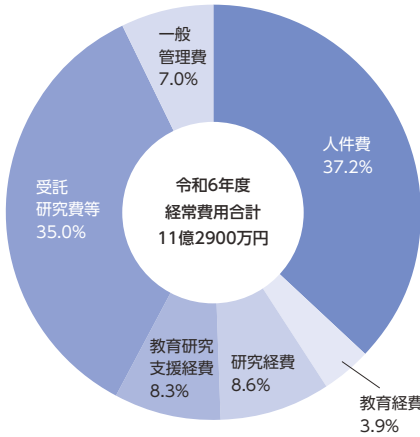
(単位:百万円)

	令和5年度	令和6年度	増減
経常費用			
人件費	374	418	44
教育経費	41	44	3
研究経費	103	97	△6
教育研究支援経費	87	93	6
受託研究費等	329	394	65
一般管理費	83	79	△4
経常費用合計	1,019	1,129	110
臨時損失	0	—	0
計	1,019	1,129	110

(単位:百万円)

	令和5年度	令和6年度	増減
経常収益			
運営費交付金収益	707	707	0
授業料収益等	27	29	2
受託研究収益等	334	405	71
寄附金収益	12	26	14
補助金等収益	4	—	△4
その他収益	18	10	△8
経常収益合計	1,105	1,179	74
臨時利益	216	—	△216
計	1,321	1,179	△142
当期総利益	302	50	△252

※金額は百万円未満を切捨しているため、合計金額と一致しない。



利益の処分に関する書類

(単位:百万円)

	令和5年度
I 当期末処分利益(当期総利益)	302
II 利益処分額	
(1) 積立金	236
(2) 目的積立金	66

※金額は百万円未満を切捨しているため、合計金額と一致しない。



■ 学生ホール

陽光あふれる広々とした空間で、学外の方々との交流に最適です。

キャンパス紹介

■ 講義室2



授業で主に使用する教室です。

■ 演習室2



小人数の演習や授業で使用されている、使い勝手の良い教室です。

■ 図書館



図書館の利用は24時間可能で、本の貸出・返却は無人で行われています。本学は電子ジャーナルが充実しており、学生や教員は主にそちらを使用している関係で、図書館には、基本的な書籍・資料を配架しています。

■ 院生室



院生一人ひとりに机を用意しています。授業の合間や特別研究に使われています。

■ ラウンジ



各階に、歓談や飲食が可能なラウンジを設けています。

大学見取図はこちらからご覧になれます。
<https://camel3.com/cms/files/s-sph/MASTER/0500/GaQJ94Kf.png>

基礎データ

学生数（2024年5月1日現在）

社会健康医学研究科		収容定員	在学生数
修士課程	1年	10人	18人
	2年	10人	19人
小計		20人	37人
博士課程	1年	2人	5人
	2年	2人	6人
小計		4人	11人
計		24人	48人

教職員数（2024年5月1日現在）

学長	副学長	教授	准教授	講師	特定教授	特定助教	教員計	事務職員	合計
1	1※	15	7	4	1	1	29	17	46

※副学長は非常勤のため、教員計からは除いている。

修了者数及び進学・就職等の状況

修了時期	修了者数	所属先で勤務継続			就職希望者	就職決定者	就職内定率(%)	本学の博士後期課程に進学
		医療機関	企業等	小計				
2023年3月	15	12	3	15	0	—	—	4
2024年3月	17	6	8	14	3	3	100	3
2025年3月	15	9	3	12	3	3	100	2

論文件数等（筆頭・最終・責任著者、代表発表者）

査読付原著論文（筆頭・最終・責任著者）	28報
総説（筆頭著者）	10報
国際学会発表等（代表発表者）	4件
国内学会総会発表等（代表発表者）	39件
計	81件

筆頭著者や代表発表者等以外の論文等発表実績

査読付原著論文（筆頭・最終・責任著者以外）	43報
総説（筆頭著者以外）	7報
国際学会発表等（共同発表者）	6件
国内学会総会発表等（共同発表者）	45件

※本学の所属を明記していない論文等は除きます。

※学会発表は、ポスター発表を除きます。

原著論文（査読あり）

【筆頭著者・責任著者・最終著者】

- Barrett CD, Suzuki Y, Moore EE, Moore HB, Maginot E.R, White CM, Siddiqui H, Gawargi FI, Chandler JG, Sauaia A, **Urano T**, A Novel Fibrinolysis Resistance Capacity Assay Can Detect Fibrinolytic Phenotypes in Trauma Patients. *Thromb Haemost.* Published online January 21, 2025;a-2508-3424. doi:10.1055/a-2508-3424
- Tabara Y**, Shoji-Asahina A, Ogawa A, **Sato Y**. Additive association of blood pressure and short stature with stroke incidence in 450,000 Japanese adults: the Shizuoka study. *Hypertens Res.* 2024;47(8):2075-2085. doi:10.1038/s41440-024-01702-x
- Saito T, **Sato Y**, **Yamamoto S**. Antimicrobial Combinations as Novel Indicators for Clostridioides difficile infection development: Population-Based, Nested Case-Controlled Study in Japan—The Shizuoka Kokuho Database Study. *Journal of Infection and Chemotherapy.* 2025;31(2):102552. doi:10.1016/j.jiac.2024.11.002
- Tabara Y**, Shoji-Asahina A, **Sato Y**. Association between Metabolic Syndrome and Cardiovascular Events in a Japanese Population with and without Obesity: The Shizuoka Kokuho Database Study. *JAT.* Published online2025:65357. doi:10.5551/jat.65357
- Tabara Y**, Ikezoe T, **Setoh K**, Kawaguchi T, Matsuda F. Association of the 25-question Geriatric Locomotive Function Scale with all-cause mortality in older adults: The Nagahama study. *Archives of Gerontology and Geriatrics.*2025;129:105670. doi:10.1016/j.archger.2024.105670
- Tabara Y**, Matsumoto T, Murase K, Kawaguchi T, **Setoh K**, Wakamura T, Hirai T, Chin K, Matsuda F. Descriptive Epidemiology and Prognostic Significance of Diaphragm Thickness in the General Population: The Nagahama Study. *J cachexia sarcopenia muscle.* 2025;16(1):e13690. doi:10.1002/jcsm.13690
- Tabata K, Sumi Y, **Sasaki H**, **Kojimahara N**. Effectiveness of Intranasal Corticosteroids for Sleep Disturbances in Patients with Allergic Rhinitis: A Systematic Review and Meta-Analysis. *Int Arch Allergy Immunol.* (IF:2.5) Published online October 29, 2024;1-15. doi:10.1159/000541389
- Ishikawa A, **Sato Y**, Terai Y, **Usui T**. Epidemiological study of the relationship between meteorological factors and onset of acute aortic dissection in Japan. Lazzeri C, ed. *PLoS ONE.* 2024;19(10):e0311489. doi:10.1371/journal.pone.0311489
- Urano T**, Sano Y, Suzuki Y, Okada M, Sano H, Honkura N, Morooka N, Doi M, Suzuki Y. Evaluation of thrombomodulin/thrombin activatable fibrinolysis inhibitor function in plasma using tissue-type plasminogen activator-induced plasma clot lysis time. *Research and Practice in Thrombosis and Haemostasis.* 2024;8(4):102463. doi:10.1016/j.rpth.2024.102463
- Amagasa T**, Inagaki A, Suzuki W, Suzukamo Y, Nagai K, Sawada K, Inadomi H, Mukaiyachi I, Anzai N, Ikebuchi E, Niwa S. Examining the content validity of the Comprehensive Assessment of Functioning for Mental Illness-Subjective Version (CAMI-S) with reference to the framework of the International Classification of Functioning, Disability, and Health (ICF). *PCN Reports.* 2024;3(3):e232. doi:10.1002/pcn5.232
- Kanou S, Nakatani E, **Urano T**, **Sasaki H**, Inoue A, Hifumi T, Sakamoto T, Kuroda Y, **Tanaka Y**, Sawano H, Egawa Y, Kato S, Bunya N, Kasai T, Ijuin S, Nakayama S, Kanda J, Takiguchi T, Yokobori S, Takada H, Inoue K, Takeuchi I, Honzawa H, Kobayashi M, Hamagami T, Takayama W, Otomo Y, Maekawa K, Shimizu T, Nara S, Nasu M, Takahashi K, Hagiwara Y, Kushimoto S, Fukuda R, Ogura T, Shiraishi S ichiro, Zushi R, Otani N, Kikuchi M, Watanabe K, Nakagami T, Shoko T, Kitamura N, Otani T, Matsuka Y, Aoki M, Sakuraya M, Arimoto H, Homma K, Naito H, Nakao S, Okazaki T, Tahara Y, Okamoto H, Kunikata J, Yokoi H. Fibrinogen levels and bleeding risk in adult extracorporeal cardiopulmonary resuscitation: multicenter observational study subanalysis. *Research and Practice in Thrombosis and Haemostasis.* 2025;9(2):102700. doi:10.1016/j.rpth.2025.102700
- Hashizume H**, **Matsuura A**, Ishikawa Y, Hata A. Flounder Roe Triggering a-Gal Syndrome: Hyosophorin as a Possible Allergen. *Acta Derm Venereol.* 2025;105:adv42664. doi:10.2340/actadv.105.42664
- Sato S, Ohata E, Nakatani E, Hawke P, **Sasaki H**, Nagai E, Taki Y, Nishida M, Watanabe M, Ohata K, Kanemoto H, **Sugawara A**. High mean corpuscular volume as a predictor of esophageal cancer: A cohort study based on the Japanese Shizuoka Kokuho Database. Tian S, ed. *PLoS ONE.* 2025;20(2):e0318791. doi:10.1371/journal.pone.0318791
- Kojimahara N**, Lee YH, Lee AK, Bae S, Kwon HJ, Ha M, **Sato Y**, Taki M, Wiart J, Langer CE, Cardis E. Impact of Radiofrequency Exposure From Mobile Phones on the Risk of Developing Brain Tumors in Korean and Japanese Adolescents: A MOBI-Kids Case-control Study. *Journal of Epidemiology.* 2024;34(4):180-186. doi:10.2188/jea.JE20230005
- Tabara Y**, Matsumoto T, Murase K, Kawaguchi T, **Setoh K**, Wakamura T, Hirai T, Chin K, Matsuda F. Intraindividual correlations between nocturnal urination frequency and sleep blood pressure: the Nagahama Study. *Hypertens Res.* 2025;48(3):994-1002. doi:10.1038/s41440-024-02085-9
- Tabara Y**, Shoji-Asahina A, Ogawa A, **Sato Y**. Metabolically healthy obesity and risks of cardiovascular disease and all-cause mortality, a matched cohort study: the Shizuoka study. *Int J Obes.* 2024;48(8):1164-1169. doi:10.1038/s41366-024-01541-3
- Kato M, Kito K, Nakano S, Nakano W, Kurita Y, **Tanaka Y**, **Kurivama N**, **Seto K**, Ozaki E, **Tabara Y**. Plantar cutaneous sensation is independently associated with postural balance and lower limb motor function in older adults: the Shizuoka study. *Eur Geriatr Med.* 2025;16(2):625-634. doi:10.1007/s41999-024-01141-4
- Tabara Y**, Shoji-Asahina A, Akasaka H, Sugimoto K, **Sato Y**. Prognostic significance of the Questionnaire for Medical Checkup of Old-Old for the incidence of functional disability: The Shizuoka Kokuho Database study. *Geriatrics Gerontology Int.* 2025;25(2):260-266. doi:10.1111/ggi.15078
- Suzuki Y, Mathews NS, Sano H, Morooka N, Honkura N, **Urano T**. Real-Time Imaging of Platelet-Initiated Plasma Clot Formation and Lysis Unveils Distinct Impacts of Anticoagulants. *Thromb Haemost.* Published online January 9, 2025;a-2497-4213. doi:10.1055/a-2497-4213
- Ubukata N, **Hashizume H**, Nakatani E, **Sasaki H**, **Miyachi Y**. Risk factors and drugs associated with the development of drug-induced hypersensitivity syndrome/drug reaction with eosinophilia and systemic symptoms: A population-based cohort study using the Shizuoka Kokuho database. *Journal of the American Academy of Dermatology.* 2024;91(3):573-575. doi:10.1016/j.jaad.2024.05.053
- Tabara Y**, Matsumoto T, Murase K, **Setoh K**, Kawaguchi T, Wakamura T, Hirai T, Chin K, Matsuda F. Sleep blood pressure measured using a home blood pressure monitor was independently associated with cardiovascular disease incidence: the Nagahama study. *Journal of Hypertension.* 2024;42(10):1695-1702. doi:10.1097/HJH.0000000000003781
- Yamaguchi-Sekino S, **Kojimahara N**. Survey of Delivery Outcomes for Employees at MR Imaging Facilities in Japan Based on Information Recorded in the Maternal and Child Health Handbook. *MRMS.* 2024;23(1):122-126. doi:10.2463/mrms.bc.2022-0080
- Hashizume H**, **Matsuura A**, **Miyachi Y**. The Shizuoka Study of a Population-Based Retrospective Cohort for the Evaluation of Risk of Pressure Injury in the Elderly. *Advances in Wound Care.* Published online March 17, 2025:wound.2024.0256. doi:10.1089/wound.2024.0256
- Shoji-Asahina A, **Usui T**, **Tabara Y**. U-shaped association between blood pressure and all-cause mortality in older adults: the Shizuoka study. *J Hum Hypertens.* 2024;39(1):66-71. doi:10.1038/s41371-024-00979-2
- 浦野哲盟**, 朝比奈彩, 竹下明裕, 鈴木優子. 急性前骨髄球性白血病併発DICの線溶活性過剰発現に血漿中の線溶活性発現抵抗性の低下が寄与する。日本血液学会学術集会. 2024;86回-O3-3.
- 鈴木優子, 岩城孝行, 窓岩清治, 森下英理子, **浦野哲盟**. 出血性線溶異常症の新規診断基準において線溶活性をどのように評価するか。日本血液学会学術集会. 2024;86回(O3-2).
- 浦野哲盟**, 鈴木優子. 線溶抵抗活性の新規迅速測定法。日本血栓止血学会誌. 2024;35(2):314.
- 木下愛未, 下里誠二, **山崎浩司**. 当事者が知覚した精神科看護師の行動と当事者自身の反応：対人円環モデルを枠組みとした質的研究。日本看護科学会誌. 2024;44(0):612-623. doi:10.5630/jans.44.612
- 【その他】
 - Ikka T, **Hatta T**, Fujita M. Amendments to ASRM: Can we move away from a “Therapeutic Haven”? *Stem Cell Reports.* 2024;19(12):1648-1650. doi:10.1016/j.stemcr.2024.10.006
 - Sano K, Toyota A, **Kojimahara N**, Hoshi K, Nakano T, Terauchi R, Tatemichi M, Fukai K, Furuya Y, Nakazawa S. Association between ocular diseases and screen time and sedentary time derived from job-exposure matrices. *Scientific Reports.* 2024;14(27042).
 - Nakazawa S, Fukai K, Sano K, Furuya Y, Hoshi K, **Kojimahara N**, Toyota A, Korenaga M, Tatemichi M. Association of occupational physical activity and sedentary behaviour with the risk of hepatocellular carcinoma: a case-control study based on the Inpatient Clinico-Occupational Database of Rosai Hospital Group. *BMJ Open.* 2025;15(3):e092020. doi:10.1136/bmjopen-2024-092020
 - Fujihira H, Yamagishi S, **Furukawa S**, Kashino M. Auditory brainstem response to paired clicks as a candidate marker of cochlear synaptopathy in humans. *Clinical Neurophysiology.* 2024;165:44-54. doi:10.1016/j.clinph.2024.06.005
 - Aoki Y, Arimura K, Hiroshima K, **Sato Y**, Kondo M, Tagaya E. CD276 as a critical independent biomarker and immune checkpoint inhibitor target in epithelioid mesothelioma-TCGA study. *J Thorac Dis.* 2025;17(1):109-120. doi:10.21037/jtd-24-1598
 - Suzuki M, Mineharu Y, Okawa M, Yoshida K, Nagata M, Yang T, Suzuki K, Takayama N, Yamamoto Y, **Tabara Y**, Miyamoto S, Arakawa Y, Matsuda F. Common and distinct risk profiles of asymptomatic extra- and intracranial atherosclerosis in the Nagahama cohort. *Journal of Stroke and Cerebrovascular Diseases.* 2024;33(8):107782. doi:10.1016/j.jstrokecerebrovasdis.2024.107782
 - Nakatani E, Ohno H, Satoh T, Funaki D, Ueki C, Matsunaga T, Nagahama T, Tonoike T, Yui H, Miyakoshi A, **Tanaka Y**, Igarashi A, Kumamaru H, **Kurivama N**, **Sugawara A**. Comparing the effects of biguanides and dipeptidyl peptidase-4 inhibitors on cardio-cerebrovascular outcomes, nephropathy, retinopathy, neuropathy, and treatment costs in diabetic patients. Sato Y, ed. *PLoS ONE.* 2024;19(8):e0308734. doi:10.1371/journal.pone.0308734
 - Murase K, Matsumoto T, **Tabara Y**, Egawa M, Minami T, Kanai O, Takahashi N, Hamada S, Sunadome H, Togawa J, Ohsuga T, Wakamura T, Komenami N, **Setoh K**, Kawaguchi T, Nakayama T, Sato S, Mandai M, Hirai T, Matsuda F, Chin K. Correlation of sleep-disordered breathing with anemia and microcytosis in premenopausal women: the Nagahama study. *Journal of Clinical Sleep Medicine.* Published online March 20, 2025;jcsm.11618. doi:10.5664/jcsm.11618
 - Fukai K, Sano K, Terauchi R, Furuya Y, Nakazawa S, **Kojimahara N**, Hoshi K, Nakano T, Toyota A, Tatemichi M. Developing a Job-Exposure Matrix for Sedentary Behavior: A Study Based on the Inpatient Clinico-Occupational Database of Rosai Hospital Group. *J Occup Environ Med.* 2025;67(1):73-77. doi:10.1097/JOM.0000000000003258
 - Ashihara T, **Furukawa S**, Kashino M. Estimating Pitch Information From Simulated Cochlear Implant Signals With Deep Neural Networks. *Trends in Hearing.* 2024;28:23312165241298606. doi:10.1177/23312165241298606
 - Takebayashi M, **Mizota Y**, Namba M, Kaneda Y, Takebayashi K, Shibutani H, Koyama T. Evaluation of Nudge-Based Notification for Follow-Up Examinations in Health Check-Ups Targeting Occupational Health Staff and Undiagnosed Workers: A Randomized Controlled Trial. *Cureus.* Published online September 23, 2024. doi:10.7759/cureus.70032
 - Matsumoto K, Ryushima Y, Sato J, Aizawa Y, Aoyama T, Akaishi Y, Okamoto R, **Sato Y**, Sugano K, Tazumi K, Tsuji M, Fujikawa N, Bun S, Yagasaki K. Extravasation associated with cancer drug therapy: multidisciplinary guideline of the Japanese Society of Cancer Nursing, Japanese Society of Medical Oncology, and Japanese Society of Pharmaceutical Oncology. *ESMO Open.* 2024;9(10):103932. doi:10.1016/j.esmoop.2024.103932
 - Wada A, Kabayama M, Godai K, Kido M, Ohata Y, Murakami N, Nakamura Y, Yoshida H, Hashimoto S, Higashi M, Hatanaka H, Kikuchi T, Terauchi K, Nagayoshi S, Matsuno F, Shinomiya N, Asayama K, Ohkubo T, Rakugi H, **Tabara Y**, Kamide K. Factors influencing the continuation of home blood pressure measurement in community-dwelling older adults: the NOSE study. *Journal of Hypertension.* 2024;42(4):694-700. doi:10.1097/HJH.0000000000003628
 - Knol MJ, Poot RA, Evans TE, Satizabal CL, Mishra A, Sargurupremraj M, Van Der Auwera S, Duperron MG, Jian X, Hostettler IC, Van Dam-Nolen DHK, Lamballais S, Pawlak MA, Lewis CE, Carrion-Castillo A, Van Erp TGM, Reinbold CS, Shin J, Scholz M, Häberg AK, Kämpe A, Li GHY, Avinun R, Atkins JR, Hsu FC, Amod AR, Lam M, Tsuchida A, Teunissen MWA, Aygün N, Patel Y, Liang D, Beiser AS, Beyers F, Bis JC, Bos D, Bryan RN, Bülow R, Caspers S, Catheline G, Cecil CAM, Dalvie S, Dartigues JF, DeCarli C, Enlund-Cerullo M, Ford JM, Franke B, Freedman BI, Friedrich N, Green MJ, Haworth S, Helmer C, Hoffmann P, Homuth G, Ikram MK, Jack CR, Jahanshad N, Jockwitz C, Kamatani Y, Knodt AR, Li S, Lim K, Longstreth WT, Macciardi F, Amouyel P, Arfanakis K, Aribisala BS, Bastin ME, Chauhan G, Chen C, Cheng CY, De Jager PL, Deary IJ, Fleischman DA, Gottesman RF, Gudnason V, Hilal S, Hofer E, Janowitz D, Jukema JW, Liewald DCM, Lopez LM, Lopez O, Luciano M, Martinez O, Niessen WJ, Nyquist P, Rotter JJ, Rundek T, Sacco RL, Schmidt H, Tiemeier H, Trompet S, Van Der Grond J, Völzke H, Wardlaw JM, Yanek L, Yang J, **Tabara Y**, et al. Genetic variants for head size share genes and pathways with cancer. *Cell Reports Medicine.* 2024;5(5):101529. doi:10.1016/j.xcrm.2024.101529
 - Mori Y, Van Dijk EHC, Miyake M, Hosoda Y, Den Hollander AI, Yzer S, Miki A, Chen LJ, Ahn J, Takahashi A, Morino K, Nakao S ya, Hoyng CB, Ng DSC, Cen LP, Chen H, Ng TK, Pang CP, Joo K, Sato T, Sakata Y, Tajima A, **Tabara Y**, The Nagahama Study Group, Nakayama T, Sekine A, Kosugi S, Park KH, Matsuda F, Yamashiro K, Honda S, Nagasaki M, Boon CJF, Tsujikawa A. Genome-wide association and multi-omics analyses provide insights into the disease mechanisms of central serous chorioretinopathy. *Sci Rep.* 2025;15(1):9158. doi:10.1038/s41598-025-92210-6
 - Mizukawa Y, Hama N, Niihara H, Miyagawa F, **Hashizume H**, Tohyama M, Takahashi H, Watanabe H, Ohyama M, Yamaguchi Y, Kawamura T, Nomura T, Kabashima K, Sueki H, Morita E, Abe R, Asada H. Guidelines for the management of drug-induced hypersensitivity syndrome 2023. *The Journal of Dermatology.* 2025;52(3). doi:10.1111/1346-8138.17609
 - Ueki C, Nakatani E, Kaneda H, **Sasaki H**. Impact of the Hospital Frailty Risk Score on Outcomes After Transcatheter Aortic Valve Replacement in Late Elderly Patients. *Cureus.* Published online September 8, 2024. doi:10.7759/cureus.68922
 - Kojima M, Mieno H, Ueta M, Nakata M, Teramukai S, Sunaga Y, Ochiai H, Iijima M, Kokaze A, Watanabe H, Kurosawa M, Azukizawa H, Asada H, Watanabe Y, Yamaguchi Y, Aihara M, Ikezawa Z, Mizukawa Y, Ohyama M, Shiohara T, Hama N, Abe R, **Hashizume H**, Nakajima S, Nomura T, Kabashima K, Tohyama M, Hashimoto K, Takahashi H, Niihara H, Morita E, Sueki H, Kinoshita S, Sotozono C. Improvement of the Ocular Prognosis of Stevens-Johnson Syndrome and Toxic Epidermal Necrolysis: A National Survey in Japan. *American Journal of Ophthalmology.* 2024;267:50-60. doi:10.1016/j.ajo.2024.05.011
 - Hosoya M, Toi S, Seki M, Hoshino T, **Sato Y**, Yoshizawa H, Iijima M, Kitagawa K. Motor Function Is Associated with Cerebral Small Vessel Disease and Can Predict Mortality and Poor Functional Outcome. *Cerebrovasc Dis.* Published online September 16, 2024;1-10. doi:10.1159/000540639
 - Aotsuka Y, Misawa S, Suichi T, Shibuya K, Nakamura K, Kano H, Otani R, Morooka M, Ogushi M, Nagashima K, **Sato Y**, **Kurivama N**, Kuwabara S. Multifocal motor neuropathy in Japan: A nationwide survey on prevalence, clinical profiles, and treatment. *Muscle and Nerve.* 2024;70(5):1027-1033. doi:10.1002/mus.28251
 - Kono Y, Kusuda S, Nishida T, Mori R, Toyoshima K, **Sasaki H**, Yonemoto N, Uchiyama A, Fujimura M, on behalf of the INTACT Study Group. Neurodevelopmental outcomes at age 3 years of preterm infants born at 22–31 weeks’ gestation. *J Perinatol.* Published online March 26, 2025. doi:10.1038/s41372-025-02268-3
 - Moriwaki S, Yu J, Takeishi K, **Sato Y**, Hayama E, Nakamura K, Honda H, Shimizu T, Feelisch M, Nagasaka Y. Nitric Oxide-Mediated Hypotensive Effects of Sevoflurane in Rats. Published online 2025. doi:10.24488/twmj.2024007
 - Satoh T, Nakatani E, Ariyasu H, Kawaguchi S, Ohno K, Itoh H, Hayashi K, **Usui T**. Pancreatic cancer risk in diabetic patients using the Japanese Regional Insurance Claims. *Sci Rep.* 2024;14(1):16958. doi:10.1038/s41598-024-67505-9
 - Hisamatsu T, Kogure M, **Tabara Y**, Hozawa A, Sakima A, Tsuchihashi T, Yoshita K, Hayabuchi H, Node K, Takemi Y, Ohkubo T, Miura K, the Japanese Society of Hypertension Working Group on Urine Sodium-to-Potassium Ratio, A. Members of the Salt Reduction and Nutrition Committee, Chair, Miura K, Vice Chairs, Sakima A, Takemi Y, Members, Ando K, Hayabuchi H, Hosawa A, Kabayama M, Kusaka M, Takase H, Tsuchihashi T, Yano Y, Yoshita K, B. Members of the Working Group on Target Value for Urine Sodium-to-Potassium Ratio for Japanese, Chair, Miura K, Vice Chairs, Ohkubo T, Takemi Y, Members, Hayabuchi H, Hisamatsu T, Hozawa A, Sakima A, **Tabara Y**, Tsuchihashi T, Yoshita K, Advisor, Node K. Practical use and target value of urine sodium-to-potassium ratio in assessment of hypertension risk for Japanese: Consensus Statement by the Japanese Society of Hypertension Working Group on Urine Sodium-to-Potassium Ratio. *Hypertens Res.* 2024;47(12):3288-3302. doi:10.1038/s41440-024-01861-x
 - Saito C, Nakatani E, **Sasaki H**, E Katsuki N, Tago M, Harada K. Predictive Factors and the Predictive Scoring System for Falls in Acute Care Inpatients: Retrospective Cohort Study. *JMIR Hum Factors.* 2025;12:e58073-e58073. doi:10.2196/58073
 - Ikenouchi H, Saito S, Ishiyama H, Kitamura A, Tanaka T, Inoue M, Takahashi Y, Koyama T, **Kurivama N**, Koga M, Toyoda K, Urushitani M, Ihara M. Predictive Value of Midregional Pro-Atrial Natriuretic Peptide for Cardioembolic Stroke in Hyperacute Ischemic Stroke. *JAHA.* 2024;13(11):e033134. doi:10.1161/JAHA.123.033134
 - Sobukawa Y, **Hatta T**, Funaki D, Nakatani E. Safety of Combined Statin and Fibrate Therapy: Risks of Liver Injury and Acute Kidney Injury in a Cohort Study from the Shizuoka Kokuho Database. *Drugs - Real World Outcomes.* 2024;11(2):317-330. doi:10.1007/s40801-024-00426-1
 - Arimura K, Kikuchi K, **Sato Y**, Miura H, Sato A, Katsura H, Kondo M, Itabashi M, Tagaya E. SARS-CoV-2 co-detection with other respiratory pathogens-descriptive epidemiological study. *Respiratory Investigation.* 2024;62(5):884-888. doi:10.1016/j.resinv.2024.07.016
 - Tsuji M, Kondo M, **Sato Y**, Miyoshi A, Kobayashi F, Arimura K, Yamashita K, Morimoto S, Yanagisawa N, Ichihara A, Tagaya E. Serum VEGF-A levels on admission in COVID-19 patients correlate with SP-D and neutrophils, reflecting disease severity: A prospective study. *Cytokine.* 2024;178:156583. doi:10.1016/j.cyto.2024.156583
 - Matsumoto T, Murase K, **Tabara Y**, Minami T, Kanai O, Sunadome H, Takahashi N, Hamada S, Tanizawa K, Wakamura T, Komenami N, **Setoh K**, Kawaguchi T, Morita S, Takahashi Y, Nakayama T, Sato S, Hirai T, Matsuda F, Chin K. Sex differences among sleep disordered breathing, obesity, and metabolic comorbidities: the Nagahama study. *Respiratory Investigation.* 2025;63(1):42-49. doi:10.1016/j.resinv.2024.11.014
 - Nagao-Sato S, Kushida O, Kurita Y, Ozaki E, **Kurivama N**, Kato M, Akamatsu R, Goda T, **Tabara Y**. Sex Differences in the Association Between Masticatory Function and Sarcopenia Components: The Shizuoka Study. *Nutrients.* 2025;17(6):968. doi:10.3390/nu17060968
 - Nakamoto S, Iwamoto T, Taira N, Kajiwara Y, Kawada K, Takabatake D, Miyoshi Y, Kubo S, Suzuki Y, Yamamoto M, Ogasawara Y, Hatono M, Yoshitomi S, Hara K, Sasahara A, Ohsumi S, Ikeda M, Doihara H, **Mizota Y**, **Yamamoto S**, Shien T, Toyooka S. The effect of exercise and educational programs for breast cancer patients on the development of breast cancer-related lymphoedema: secondary endpoint from a randomized controlled trial in the Setouchi Breast Project-10. *Breast Cancer.* 2024;31(5):969-978. doi:10.1007/s12282-024-01610-5
 - Inoue S, Takata Y, **Tabara Y**, Maruyama K, Yoshida A, Osawa H, Sugiyama T. The influence of hypertensive disorders of pregnancy on the development of long-term postpartum type 2 diabetes mellitus. *Endocr J.* 2025;72(6):727-741. doi:10.1507/endocrj.EJ25-0033
 - Fujita M, **Hatta T**, Ikka T, Onishi T. The urgent need for clear and concise regulations on exosome-based interventions. *Stem Cell Reports.* 2024;19(11):1517-1519. doi:10.1016/j.stemcr.2024.09.008
 - Nakamaru R, Nishimura S, Kumamaru H, Shoji S, Nakatani E, Yamamoto H, **Miyachi Y**, Miyata H, Kohsaka S. Trajectories of Frailty and Clinical Outcomes in Older Adults With Atrial Fibrillation: Insights From the Shizuoka Kokuho Database. *Circ Cardiovascular Quality and Outcomes.* 2024;17(8). doi:10.1161/CIRCOUTCOMES.123.010642
 - Kiyozumi Y, Matsubayashi H, Todaka A, Ashida R, Nishimura S, Kado N, Higashigawa S, Harada R, Ishihara E, **Horiuchi Y**, Honda G, Kenmotsu H, Serizawa M, Urakami K. Two Japanese families with familial pancreatic cancer with suspected pathogenic variants of CDKN2A: a case report. *Hered Cancer Clin Pract.* 2024;22(1):11. doi:10.1186/s13053-024-00283-7

37. Fang W, Godai K, Kabayama M, Akagi Y, Kido M, Akasaka H, Takami Y, Ikebe K, Arai Y, Masui Y, Ishizaki T, Yasumoto S, Gondo Y, Yamamoto K, **Tabara Y**, Kamide K. Usefulness of the serum creatinine/cystatin C ratio as a blood biomarker for sarcopenia components among age groups in community-dwelling older people: The SONIC study. *Geriatrics Gerontology Int.* 2024;24(6):529-536. doi:10.1111/ggi.14876

38. Van Wel L, Huss A, Kromhout H, Momoli F, Krewski D, Langer CE, Castaño-Vinyals G, Kundi M, Maule M, Miligi L, Sadetzki S, Albert A, Alguacil J, Aragonés N, Badia F, Bruchim R, Goedhart G, De Llobet P, Kiyohara K, **Kojimahara N**, Lacour B, Morales-Suarez-Varela M, Radon K, Remen T, Weinmann T, Vrijheid M, Cardis E, Vermeulen R, MOBI-Kids consortium. Validation of mobile phone use recall in the multinational MOBI-kids study. *Bioelectromagnetics.* 2024;45(7):313-328. doi:10.1002/bem.22507

39. Zhou B, Rayner AW, Gregg EW, Sheffer KE, Carrillo-Larco RM, Bennett JE, Shaw JE, Paciorek CJ, Singleton RK, Barradas Pires A, Stevens GA, Danaei G, Lhoste VP, Phelps NH, Heap RA, Jain L, D'Ailhaud De Brisis Y, Galeazzi A, Kengne AP, Mishra A, Ikeda N, Lin HH, Aguilar-Salinas CA, Anjana RM, Ben Romdhane H, Davletov K, Ganapathy S, Heidemann C, Khader YS, Khang YH, Laxmaiah A, Mbanya JCN, Mohan V, Narayan KV, Pavkov ME, Sobngwi E, Wade AN, Younger-Coleman NO, Zdrojewski T, Abarca-Gómez L, Abbasi-Kangevari M, Abdul Rahim HF, Abu-Rmeileh NM, Adambekov S, Adams RJ, Aekplakorn W, Afzal S, Agdeppa IA, Aghazadeh-Attari J, Agyemang C, Ahmad NA, Ahmadi A, Ahmadi N, Ahmadi N, Ahmed SH, Ahrens W, Ajlouni K, Al-Hamli SF, Al-Hinai H, Al-Lawati JA, Al Asfoor D, Alarouj M, AlBuhairan F, AlDhukair S, Ali MM, Ali MK, Alieva AV, Alinezhad F, Alkandari A, Alkerwi A, Aly E, Amarapurkar DN, Andersen LB, Andersen SA, Andrade DS, Ansari-Moghaddam A, Aounallah-Skhiri H, Araújo J, Aris T, Arku RE, Arlappa N, Aryal KK, Asplund T, Assah FK, Assembekov B, Au Yeung SL, Auvinen J, Avdičová M, Azad K, Azevedo A, Azimi-Nezhad M, Azizi F, Bacopoulou F, Balakrishna N, Balanova Y, Bamoshmoosh M, Banach M, Bandosz P, **Tabara Y** et al. Worldwide trends in diabetes prevalence and treatment from 1990 to 2022: a pooled analysis of 1108 population-representative studies with 141 million participants. *The Lancet.* 2024;404(10467):2077-2093. doi:10.1016/S0140-6736(24)02317-1

40. **末岡浩**. Mayer-Rokitansky-Küster-Hauser (MRKH) 症候群. 産婦人科の実際. 2024;73(11):1431.

41. 會田信子, 松井瞳, **山崎浩司**, 伊澤淳. 協同学習中のパフォーマンス自己評価尺度高等教育機関学生版CoopSR尺度の開発：CoopSR尺度の必要性とヘルスコミュニケーション学への示唆. 日本ヘルスコミュニケーション学会誌. 2024;15(2):36.

42. **末岡浩**. 第2章 小手術の実際とコツ E. 卵管 1 卵管通過障害／卵管鏡. 産科と婦人科. 2025;92:178.

43. **末岡浩**. 特集 助産師が知っておきたい新スタンダード！最新 不妊治療とプレコンセプションケア 妊娠・出産で配慮すべきことは？保健指導のポイントは？ 最新知識 07着床前診断（PGT-A、PGT-SR）の最新知識. ペリネイタルケア. 2025;44(2):109.

総説（筆頭著者に限る）

1. **宮地良樹**. いまスキンケアでできること. 最新美容皮膚科学体系第三巻 アンチエイジングとスキンケア、 中山書店、東京. Published online April 2024.

2. **天笠崇**. メンタルヘルスを身近なものに. 建設労働のひろば. Published online April 2024.

3. **末岡浩**. 解説 症例数は少なく単一施設事例 データ集積が今後の課題. *MMJ.* 2025;21(1).

4. **浦野哲盟**. 鈴木優子. 血栓形成性疾患 先天性血栓形成性疾患 プラスミノーゲンアクチベータインヒビター1過剰症. 日本臨床. Published online 2024.

5. **八田太一**. 混合研究法の基本的な考え方と質基準. *Medical Science Digest.* 2024;50(9).

6. **天笠崇**. 産業医学・公衆衛生学からみた過労死研究のこれまでとこれから. 過労死防止学会誌. 2025;(5).

7. **末岡浩**. 水口雄貴, 望月修, **堀内泰江**, **白井健**, 三宅秀彦, 後藤雄一. 静岡県における遺伝性疾患対応医療機関の実態調査(第1報). 日本遺伝カウンセリング学会誌. 2024;45(2).

8. **宮地良樹**. 赤ら顔（酒皰）の診断と治療. *最新美容皮膚科学大系》第5巻 脱毛・にきびの治療、 中山書店、東京. Published online September 2024.*

9. **堀内泰江**. 樽林歩美, 高林直輝, 常泉道子, 原崎正士, 小杉理英子, 浮田真沙世, 有安宏之, 金沢佑治, 佐藤辰宣, 多久佳成, 山中康弘, 藤巻奈緒美, **白井健**. 当院におけるがんゲノムプロファイリング検査の二次的所見開示の現状と課題. 日本遺伝カウンセリング学会誌. 2024;45(2).

10. **宮地良樹**. 痤瘡（にきび）の病態. *最新美容皮膚科学大系》第5巻 脱毛・にきびの治療、 中山書店、東京. Published online September 2024.*

国際学会発表（代表発表者に限る）

【一般口演】

1. **Urano T**, Barre CD, Moore EE, Moore HB, Suzuki Y. A novel fibrinolysis resistance capacity assay successfully detected fibrinolytic phenotypes in trauma patients. Presented at: Fibrinolysis down Under: Fundamental aspects and Translational opportunities; November 12, 2024.

2. **Tabara Y**, Shoji-Asahina A, Ogawa A, **Sato Y**. Changes in body mass index is an independent risk factor for incidence of functional disability and all-cause mortality in older adults: the Shizuoka study. Presented at: 20th Congress of European Geriatric Medicine Society; September 18, 2024.

3. **Kurivama N**, Miyakoshi A, Nakatani E. Risk Factors for Idiopathic Normal Pressure Hydrocephalus (INPH): A Study from the Shizuoka National Health Insurance (Kokuho) Database. Presented at: 16th Hydrocephalus2024 Meeting; September 15, 2024.

【シンポジウム】

1. **Urano T**. Proposal for establishing guidance for diagnosis of rare bleeding disorders caused by dysfunction of fibrinolysis inhibitors. Presented at: Annual Congress of International Society of Thrombosis and Haemostasis 2024; June 24, 2024.

国内学会発表（代表発表者に限る）

【招待講演】

1. **小島原典子**. RLS診療ガイドライン エビデンスの少ない領域に対するGRADEアプローチ採用の試み. Presented at: 第42回日本神経治療学会; November 9, 2024.

2. **小島原典子**. シンポジウム5多学会連携によるデジタルメンタルヘルスの予防介入効果指針の策定状況「産業保健分野におけるメンタルヘルス1次予防指針作成における学会連携と患者市民参画」. Presented at: 第32回日本産業ストレス学会; December 14, 2024.

3. **山本精一郎**. リスク層別による組織型乳がん検診の可能性. Presented at: 日本外科学会; April 20, 2024.

4. **森寛子**. 災害下の積極的屋内避難計画と備蓄品・トイレ準備の備え 静岡県・高齢者居住施設への質問票調査. Presented at: 日本老年社会科学会第66回大会; June 2, 2024.

5. **小島原典子**. 諸外国のデジタルメンタルヘルスの基盤整備動向. Presented at: 日本労働科学学会第5回年次大会; May 18, 2024.

6. **栗山長門**. 山田恵, 赤澤健太郎, 酒井晃二, 渡邊能行. 特発性正常圧水頭症患者の側脳室温度と自律神経指標との関連. Presented at: 第26回日本正常圧水頭症学会; February 8, 2025.

7. **田原康玄**. 日本人のための尿ナトリウム/カリウム比の提案 尿ナトリウム/カリウム比の測定において留意すべき要因. Presented at: 第46回 日本高血圧学会総会; October 13, 2024.

8. **藤本修平**. 理学療法におけるアントレプレナーシップ教育のススメ. Presented at: 第29回日本基礎理学療法学会学術大会; October 13, 2024.

【シンポジウム】

1. **田原康玄**. Hypertension Research への期待と抱負. Presented at: 第46回 日本高血圧学会総会; October 12, 2024.

2. **田原康玄**. 家庭血圧計を用いた夜間血圧の評価. Presented at: 第60回日本循環器病予防学会学術集会; May 11, 2024.

3. **天笠崇**. 産業医学・公衆衛生学からの過労死研究のこれまでとこれから. Presented at: 第10回過労死防止学会; August 31, 2024.

4. **山崎浩司**. 死生におけるコンパッションと慈悲. Presented at: 第74回日本東洋医学会学術総会; June 2, 2024.

5. **田中仁啓**. 米国留学を通して夫婦ともにキャリアチェンジ！！. Presented at: 第47回日本分子生物学会年会; November 27, 2024.

6. **橋爪秀夫**. 薬疹データベース構築の進捗状況. Presented at: 第54回日本皮膚免疫アレルギー学会; December 20, 2024.

7. **橋爪秀夫**. 薬疹の今：最新情報のupdate. Presented at: 第54回日本皮膚免疫アレルギー学会; December 20, 2024.

【基調講演】

1. **藤本修平**. 理学療法の真の価値. Presented at: 第27回静岡県理学療法学術大会; June 22, 2024.

2. **藤本修平**. 良好なアドヒアランスのためのshared decision making. Presented at: 第33回福岡県理学療法士学会; July 14, 2024.

【一般口演】

1. **Urano T**, Asahina A, Takeshita A, Suzuki Y. Impaired fibrinolysis resistant capacity causes hyper-fibrinolysis in DIC in APL: JALSG APL212 study. Presented at: 第 8 6 回日本血液学会; October 13, 2024.

2. **橋爪秀夫**, **松浦杏美**, **宮地良樹**. ビッグデータ教える褥瘡入院有病率とWOCナースの貢献度. Presented at: 第54回日本創傷治療学会; December 5, 2024.

3. **栗山長門**. 尾崎悦子, 小山晃英, 松井大輔, 渡邊功, 高嶋直敬, 渡邊能行. ヒト短時間睡眠下における骨量とコルゾール-交感神経系の検討. Presented at: 第77回日本自律神経学会総会; October 25, 2024.

4. **栗山長門**. 尾崎悦子, 小山晃英, 松井大輔, 渡邊功, **田原康玄**, 赤澤健太郎, 山田恵, 渡邊能行. ロコモや咬合力などの老化指標と脳容量の関連からみた高齢者健診の重要性. Presented at: 第11回日本サルコペニア・フレイル学会大会; November 3, 2024.

5. **田原康玄**. ながはまスタディグループ. 家庭血圧計で測定した睡眠時血圧は心血管系疾患発症と独立して関連する～ながはまスタディ. Presented at: 第46回 日本高血圧学会総会; October 12, 2024.

6. **森寛子**. 中根綾子, 横田悠里, 戸原玄. 継続的な訪問摂食嚥下リハビリテーションが在宅介護者に与える介護提供意欲向上への影響:横断研究. Presented at: 第30回摂食嚥下リハビリテーション学会; August 30, 2024.

7. **田原康玄**. 朝比奈彩, 小川紋, **佐藤洋子**. 健康的な肥満は総死亡や循環器疾患と関連しない. Presented at: 第70回東海公衆衛生学会学術大会; July 6, 2024.

8. **栗山長門**. 尾崎悦子, 小山晃英, 松井大輔, 渡邊功, **田原康玄**, 渡邊能行. 高齢者健診における運動器症候群(ロコモティブシンドローム)における自律神経活動の関連性. Presented at: 第70回東海公衆衛生学会学術大会; July 6, 2024.

9. **栗山長門**. 松井大輔, 赤澤健太郎, 渡邊啓太, 尾崎悦子, 小山晃英, 渡邊功, 猪原匡史, 齊藤聡, 佐治直樹, 山田恵, 渡邊能行. 高齢者健診における脳容量における咬合力と老化（ロコモや認知機能）に関する指標の検討. . Presented at: 第65回日本神経学会学術大会; May 31, 2024.

10. **森寛子**, **佐々木八十子**, 中山健夫. 高齢者集団居住施設の避難戦略と人的資源災害準備の関連:質問票調査. Presented at: 第83回日本公衆衛生学会総会; October 31, 2024.

11. **八田太一**. 尾崎悦子, **佐々木八十子**, **森寛子**, **栗山長門**. 自立高齢者のCOVID-19ワクチン接種に関わる期待と懸念:質問紙調査. Presented at: 第83回日本公衆衛生学会総会; October 31, 2024.

12. **松浦杏美**, **白井健**, **田原康玄**. 静岡県保データベース(SKDB)を用いた大腿骨近位部骨折のリスク因子の解析. Presented at: 第26回日本骨粗鬆症学会; October 10, 2024.

13. **浦野哲盟**. 鈴木優子. 線溶抵抗活性の新規迅速測定法. Presented at: 第 4 6 回日本血栓止血学会; June 14, 2024.

14. **栗山長門**. 尾崎悦子, **瀬藤和也**, 小山晃英, 猪原匡史, 殿村修一, 齊藤聡, 松井大輔, 渡邊功, 山田恵, 赤澤健太郎, 佐治直樹, 中瀬泰然, 山本康正, 森直樹, 渡邊能行. 大脳深部白質病変 (DWL)における腸内細菌叢測定の有用性. Presented at: 第50回日本脳卒中学会; March 7, 2025.

15. **栗山長門**. 尾崎悦子, 小山晃英, 猪原匡史, 齊藤聡, 山田恵, 赤澤健太郎, 渡邊啓太, 松井大輔, 渡邊能行. 地域高齢者健診における脳容量と老化(咀嚼力、ロコモや認知)指標との関連. Presented at: 第14回日本脳血管認知症学会; July 20, 2024.

16. **田原康玄**. 朝・晩・夜間の家庭血圧に対する室温の影響. Presented at: 血圧管理研究会; December 7, 2024.

17. **栗山長門**. 尾崎悦子, 小山晃英, 松井大輔, 渡邊功, **田原康玄**, 渡邊能行. 脳容量と老化指標との関連からみた高齢者健診の重要性. Presented at: 第83回日本公衆衛生学会総会; October 29, 2024.

2024年度 論文及び学会等発表一覧

18. 栗山長門, 尾崎悦子, 小山晃英, 松井大輔, 渡邊功, 田原康玄, 渡邊能行. 脳容量と老化指標との関連からみた高齢者健診の重要性. Presented at: 第83回日本公衆衛生学会総会; October 29, 2024.
19. 田原康玄, ながはまスタディグループ. 夜間尿回数の日間変動と睡眠時血圧. Presented at: 第60回日本循環器病予防学会学術集会; May 11, 2024.
20. 田原康玄, 佐藤洋子. 要介護認定リスク評価ツールとしての後期高齢者質問票の有用性. Presented at: 第83回日本公衆衛生学会総会; October 29, 2024.
21. 栗山長門, 尾崎悦子, 小山晃英, 松井大輔, 渡邊功, 田原康玄, 赤澤健太郎, 山田恵, 渡邊能行. 咬合力,老化(ロコモや認知)と脳容量解析の関連について 高齢者健診データより . Presented at: 第43回日本認知症学会学術集会; November 21, 2024.

【講演・セミナー】

1. 田原康玄. 夜間の血圧を知る、測る、理解する。 . Presented at: 第36回日本循環器病予防セミナー; August 24, 2024.

SHIZUOKA GRADUATE UNIVERSITY OF PUBLIC HEALTH ANNUAL REPORT 2024

発行：静岡社会健康医学大学院大学 教務課（2025年6月）

〒420-0881 静岡市葵区北安東4-27-2

電話番号 054-295-5401

kyomu@s-ph.ac.jp

<https://s-ph.ac.jp>



本学アニュアルレポートはWebサイトでもご覧になれます。

<https://s-ph.ac.jp/disclosure/corporate/plan>

表紙：本学の外観

2021年2月に教育棟及び附属棟が、翌2022年2月に研究棟が竣工して間もないことから、近代的で清潔感あふれる施設・設備が好評です。

